

ざっくり
黙示録

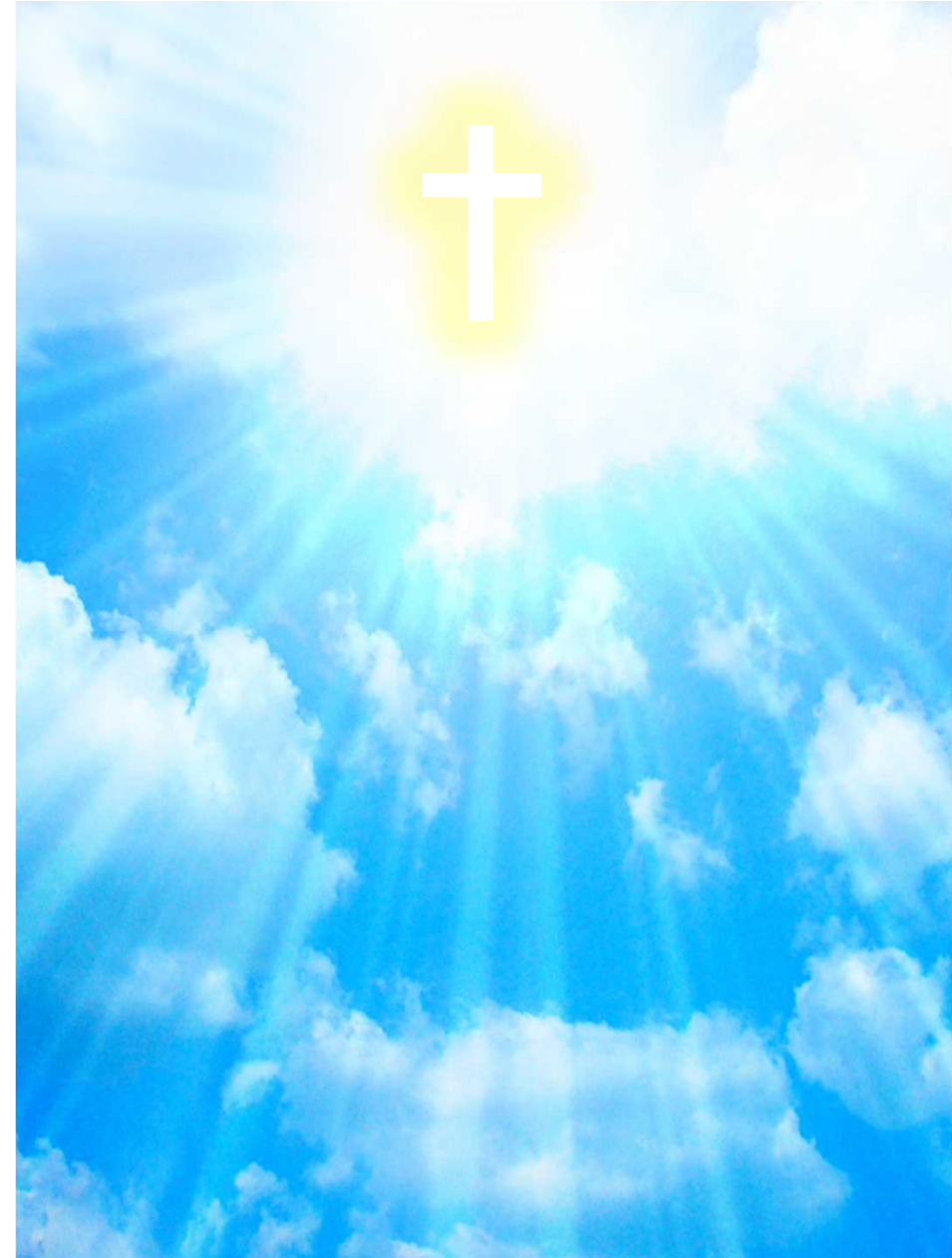
②

7つの教会 への手紙・前

黙示録2章

【今日のアウトライン】

- 0. ふりかえり 聖書の世界観
 - I. 教会の歴史を振り返る
 - II. 7つの教会への手紙・前編
 - III. まとめと適用
- 福音から知るキリスト
栄光の主を讃えよう



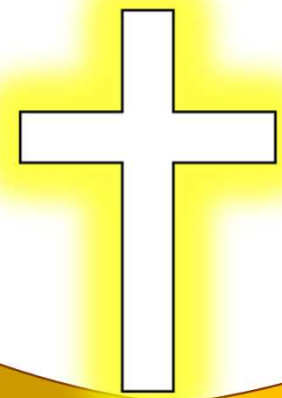
0. ふりかえり



【聖書の世界観には、初めがあり、終わりがある】

天地創造
人類の墮罪

キリストの
十字架の
死と復活

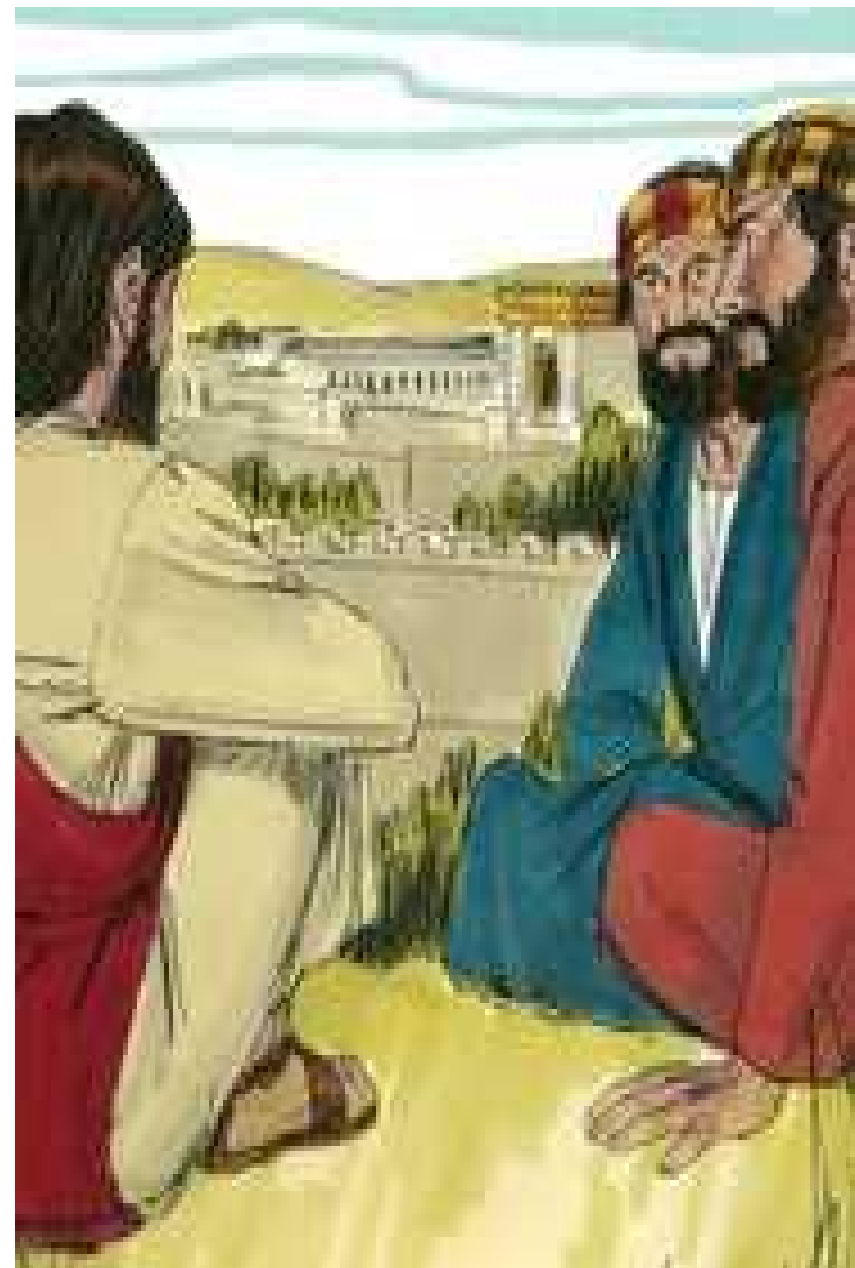


今の時代(教会時代)

～ゴールは、世界の回復。理想世界の実現～

【聖書が教える今の時代とは？】

- イエスは、十字架の死と復活によって、悪魔に勝利したが、まだ正式に、地上の王になっていない。
- 悪魔が地上を不法占拠している状況。
- 世の中は、悪くなっていく一方。
「方々で戦争が起こり、偽キリストが大勢現れる。」
イエスの警告(マタイ24:5～6)



【聖書の終末観の原則】

- 人は、ただ、イエスを救い主と信じて救われる。
- 全ての人に、救いの手が差し伸べられている。
⇒ 応答した人は、その瞬間に救われる。
- 世界の回復は、再臨のイエスがなされる。
⇒ それがいつかは、誰も分からない。
- 人間の努力で、終末が早まることはない。



【なぜイエスは、すぐに来ないのか？】

- 再臨のイエスは、王の王として、「裁き主」として来る。
- その時、あらゆる悪は裁かれる。裁きを免れる人は、一人もいない。
- 一人でも多くの人が、福音を信じて救われるための、“猶予期間”が、今の時代!!

イエスが来られる前か、あなたが死ぬ前に、福音を信じなさい、ということ!!



【黙示録とは？】

■ 新約聖書の最後の書物。

■ 「世の終わりに、何がおきるのか？」

⇒ 旧約聖書の終末預言を時系列に並べたもの。

■ 難解で比喩的な表現が多く、

旧約聖書のルールが分からないと、理解不能。



★ イスラエルの歩み ★

【千年王国】

黙示録

メシア再臨

【大患難時代】

異邦人の時

エルサレム陥落 70

メシア初臨

【中間時代】

帰還・再建 前538

バビロン捕囚 前587

新しい契約

北イスラエル滅亡 前722

南北分裂 前950

【王国時代】

ダビデ契約

【カナン定着・士師時代】

土地の契約

【荒野の四〇年】

モーセ契約

【エジプト奴隷の四〇〇年】

出エジプト 前1290

【族長時代】

アブラハム契約

【黙示録について】

■ 著者は、十二使徒の一人、ヨハネ。

■ AD95年頃、流刑先のエーゲ海のパトモス島で記述。

➡ 主イエスの十字架と復活から、約65年後。
(「使徒の働き」のラストから35年後)

➡ ローマ帝国の迫害が強まり、多くの殉教者も。
2世代目のクリスチャンが主流に。

■ 目的 ... 迫害に直面している信者の励まし

① 終末の希望をもって迫害を耐え忍ぶ。

② 終わりの日に、悪は必ず裁かれ、

主イエスが王の王となって、世界を統治する。

聖書の希望は
終末的希望!!

【黙示録の3つのテーマ】 黙1:19～20

「それゆえ、あなたが見たこと、* 今あること、* この後起ころうとしていること* を書き記せ。

あなたがわたしの右手に見た七つの星と、七つの金の燭台の、秘められた意味について。七つの星は七つの教会の御使いたち、七つの燭台は七つの教会である。」

①あなたが見たこと(1章) ...裁き主なる栄光のキリスト

②今あること(2～3章) ...教会時代の教会への警告

③この後起ころうとしていること(4～22章)

...携拳、大患難時代、再臨、千年王国、新天新地。



黙示録アウトライン

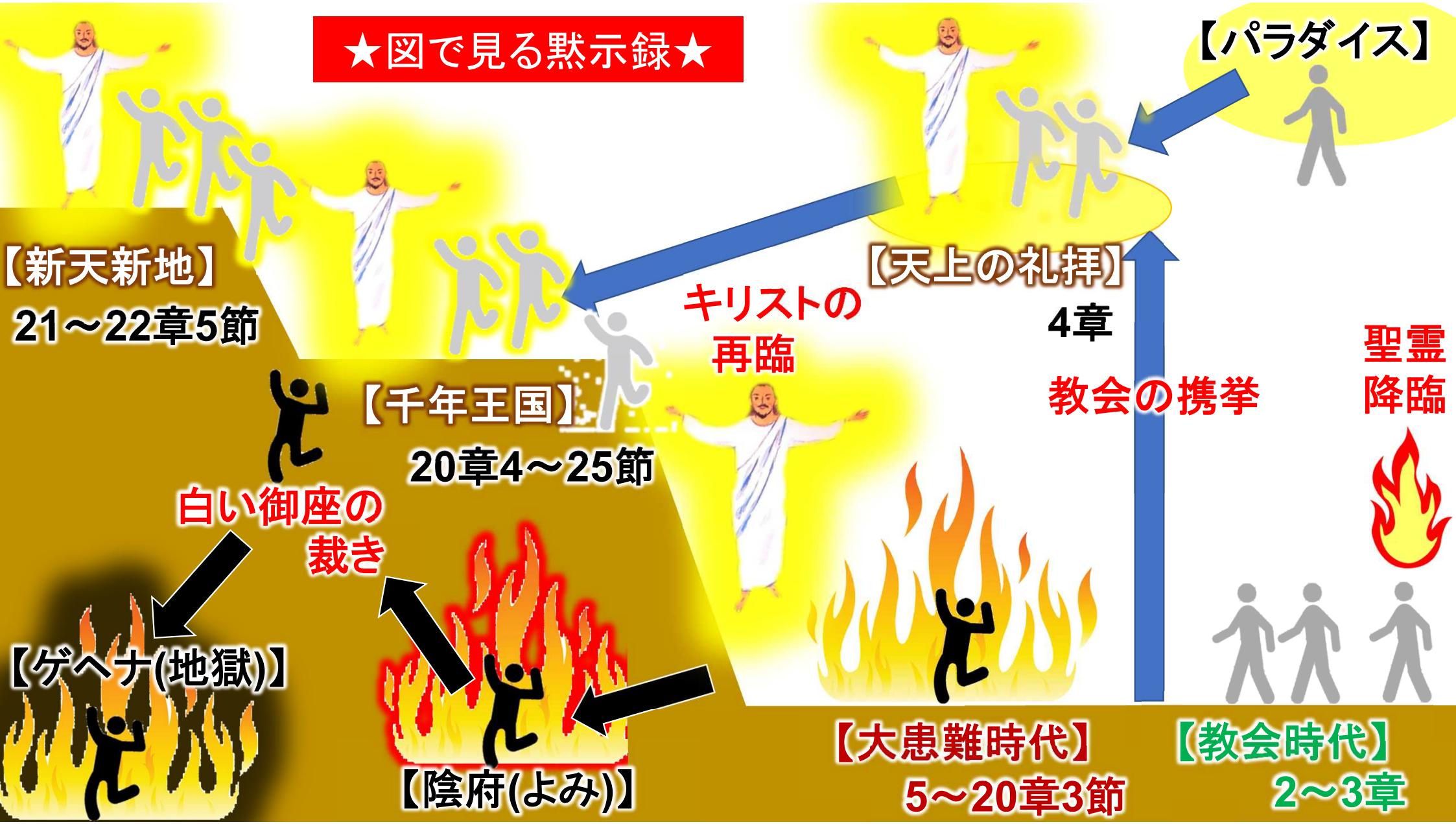
見たこと

今あること

これから
起きること

序 文	栄光のキリストとの遭遇	1章
教会時代(現在)	教会への励ましと警告	2～3章
天上の礼拝	教会の携挙～天上の礼拝	4章
大艱難時代	大艱難時代に起こること キリストの再臨	5章～20 章
千年王国	千年王国の様子 白い御座の裁き(最終的裁き)	20章
新天新地	地に降る天のエルサレム 永遠の神の王国	21～22章
結 論	イエスの宣言と招き	22章

★図で見る黙示録★



【パラダイス】



【天上の礼拝】

4章

教会の携挙

聖霊降臨



キリストの再臨

【千年王国】

20章4~25節

白い御座の裁き

【大患難時代】

5~20章3節

【教会時代】

2~3章

【新天新地】

21~22章5節

【ゲヘナ(地獄)】

【陰府(よみ)】

I. 教会の歩みを振り返る



【なぜ、黙示録は、難しいのか？ 歴史から読み解く】

★エルサレム陥落・AD70年★

ローマにより、エルサレム神殿は徹底的に破壊。

エルサレムいたメシアニック・ジューは、イエスの警告を思い起こし、何を逃れたが、この時以来、エルサレム教会は消滅。

やがて、異邦人が教会の主流となると、
ユダヤ人クリスチャン(メシアニック・ジュー)は、
脇へ追いやられ、閉め出されていった。



【比喩(ひゆ)的解釈・置換神学の台頭】

- メシアニック・ジューを追い出した異邦人教会は、聖書本来のヘブル的文脈を失ってしまった。
- “教会が、新しいイスラエルにとってかわった”のだという、「比喩的解釈」に基づく、「置換神学」が主流に。



オリゲネス
(185～254)

比喩的解釈を
提唱。

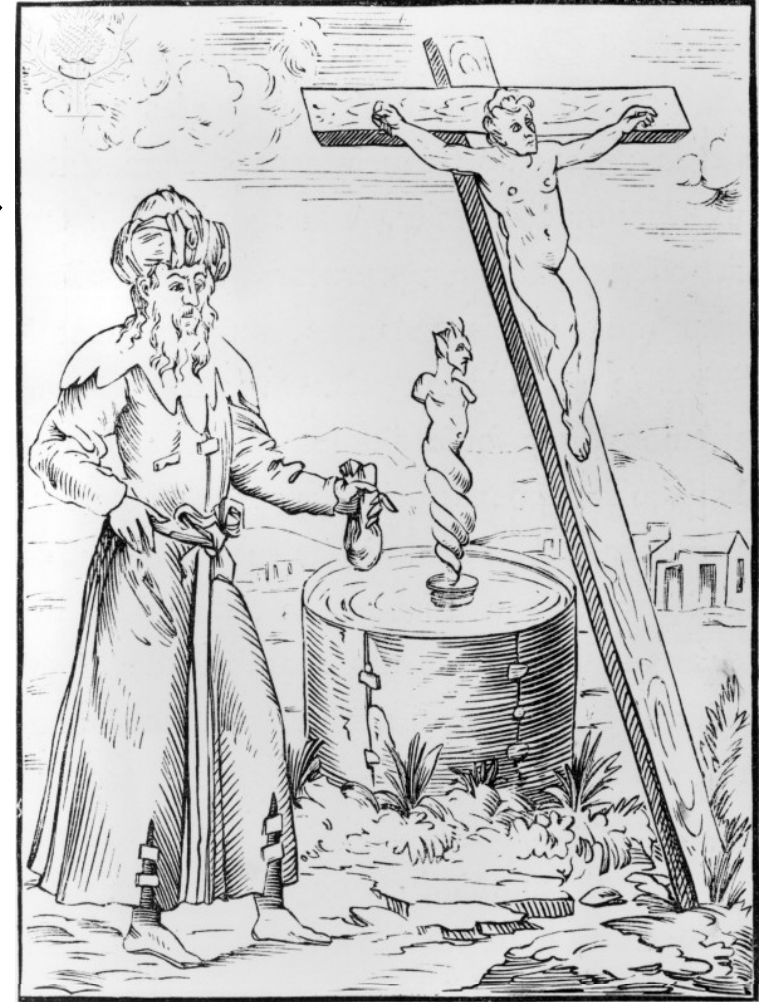


アウグスティヌス
(356～430)

比喩的解釈を
預言に適用。
終末論が曖昧に。

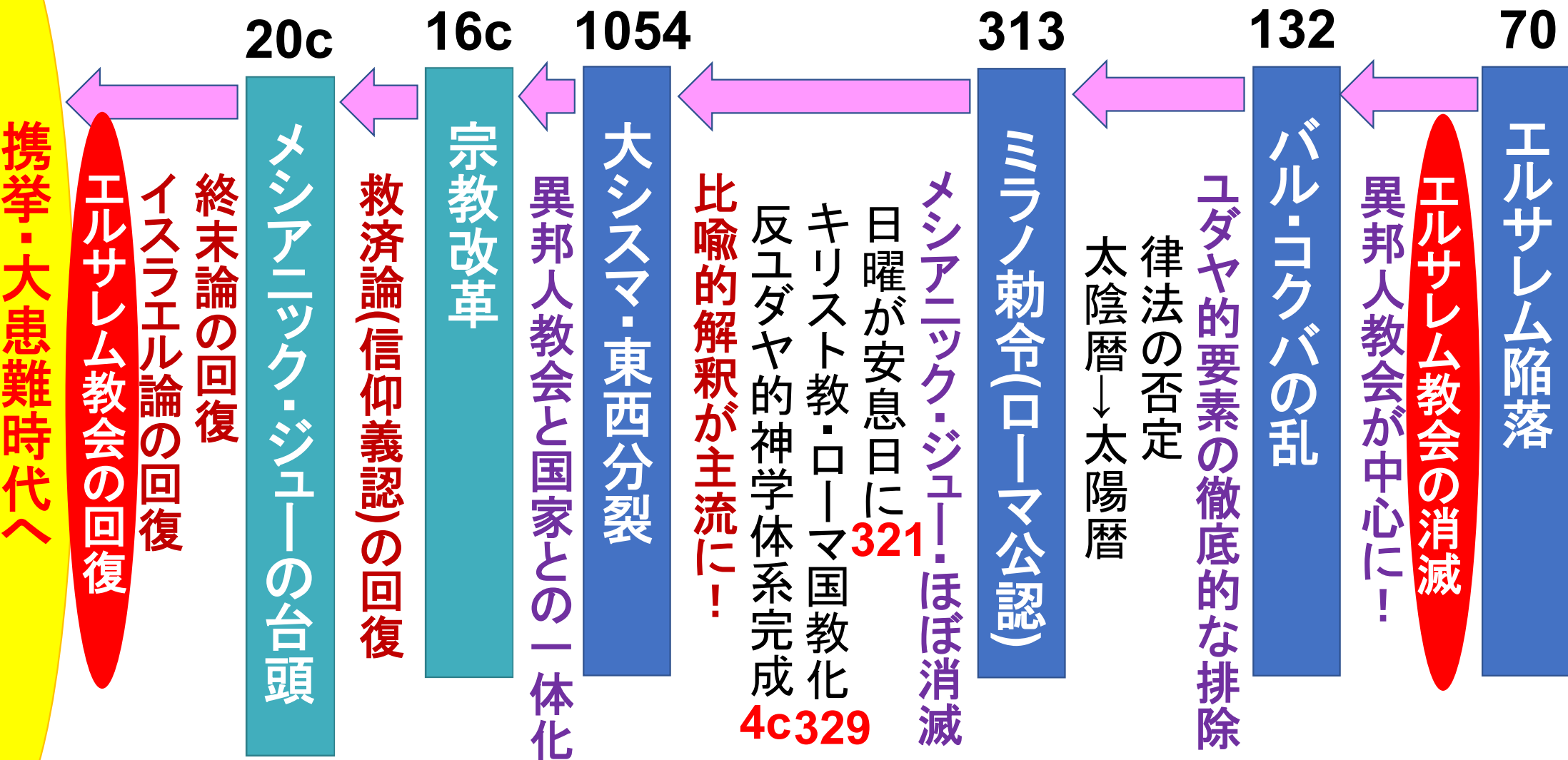
【蔓延する反ユダヤ主義】

- 「ユダヤ人は、メシアを拒んで見捨てられ、教会が、新しいイスラエルになった」と理解されていった。
- ユダヤ人は、「イエス殺し」と呼ばれ、厳しい差別と迫害を受けるようになった。
- 宗教改革者のマルティン・ルターもユダヤ人への偏見は同様だった。



ユダヤ人を悪魔的に描いた風刺画(1560)

【本来のユダヤ的文脈の喪失と回復】



【後の時代を見越したパウロの警告】

「すると、神はご自分の民を退けてしまわれたの
ですか。絶対にそんなことはありません。

ロマ 11:1」

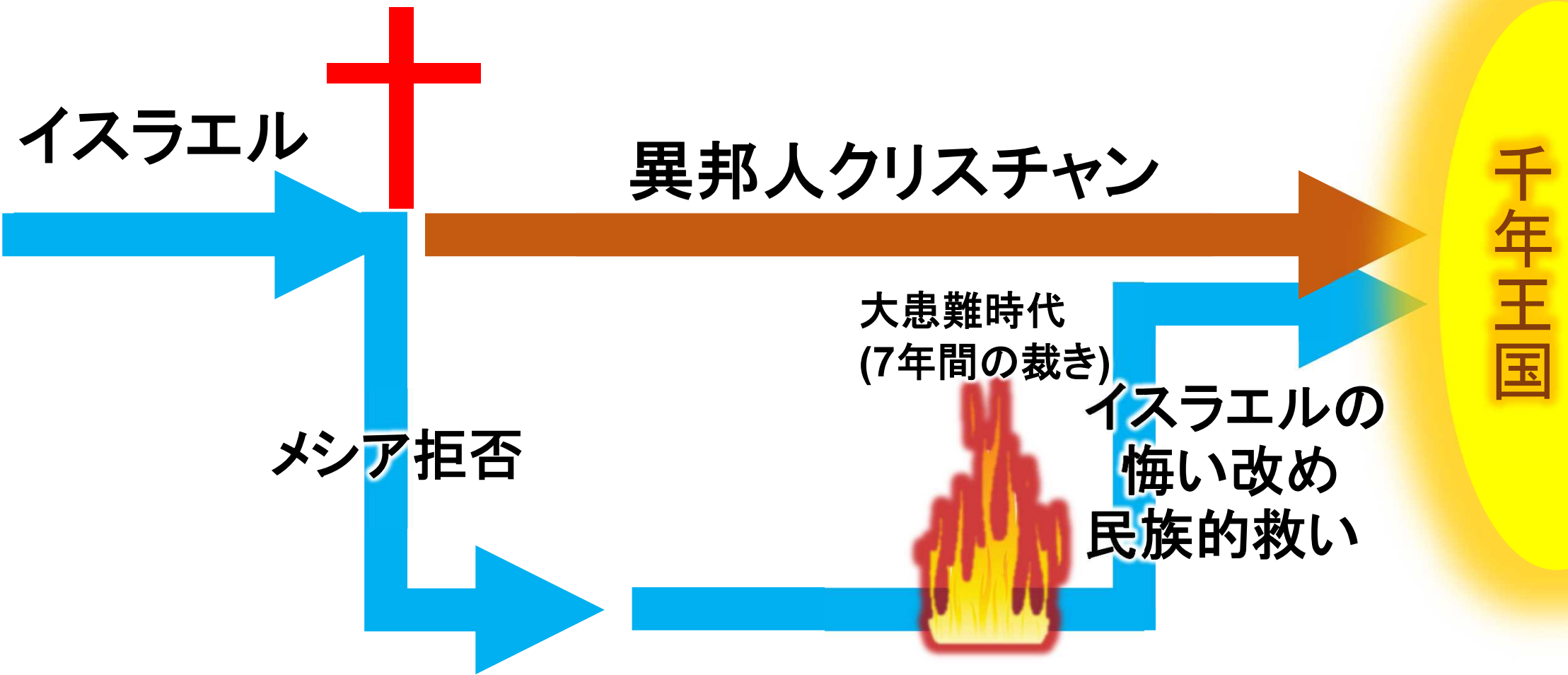
「その奥義とは、イスラエル人の一部がかたくなに
なったのは異邦人の完成のなる時までであり、
こうして、イスラエルはみな救われる、ということです。

ロマ11:25～26」

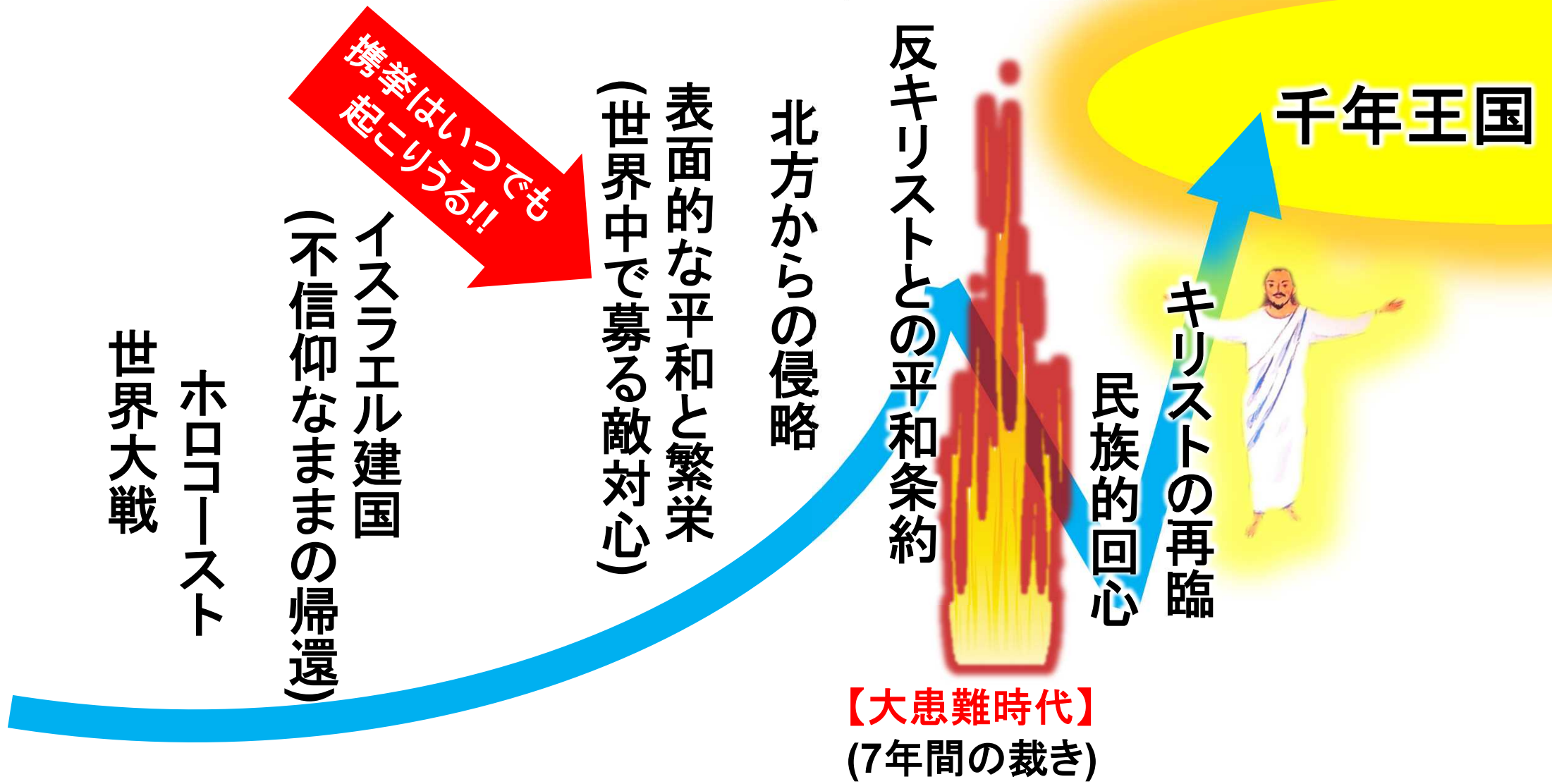


【イスラエルに対する神の救いの計画】

メシアを拒んだイスラエルが悔い改める時が来る!!



【イスラエルへの神の計画・これから起きること】

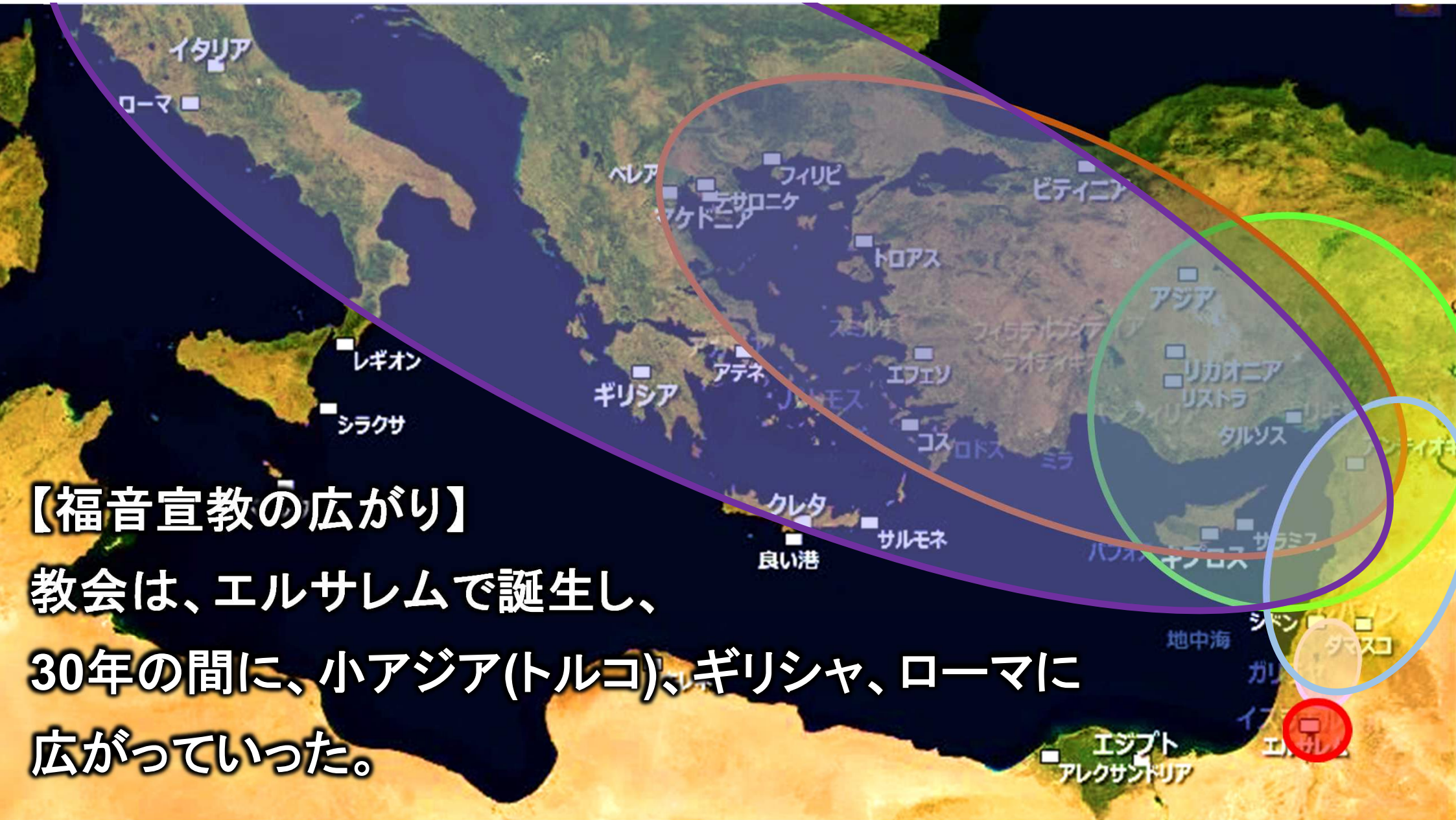


Ⅱ. 7つの教会への手紙

黙示録2章

エペソ、スミルナ、ペルガモン、ティアティラ





【福音宣教の広がり】

教会は、エルサレムで誕生し、

30年の間に、小アジア(トルコ)、ギリシャ、ローマに

広がっていった。

【7つの教会へ】 黙1:11

その声はこう言った。

「あなたが見たことを巻物に記して、

七つの教会、すなわち、

①エペソ、②スミルナ、③ペルガモン、

④ティアティラ、⑤サルディス、

⑥フィラデルフィア、⑦ラオディキアに

送りなさい。」



【7つの教会への手紙とは？】

■ 天におられる**栄光のキリスト**が、

使徒ヨハネを通して**地上の教会**に宛てた手紙。

➔ 当時、小アジア(トルコ)に実際にあった教会。

現在は、一つも残っていない。

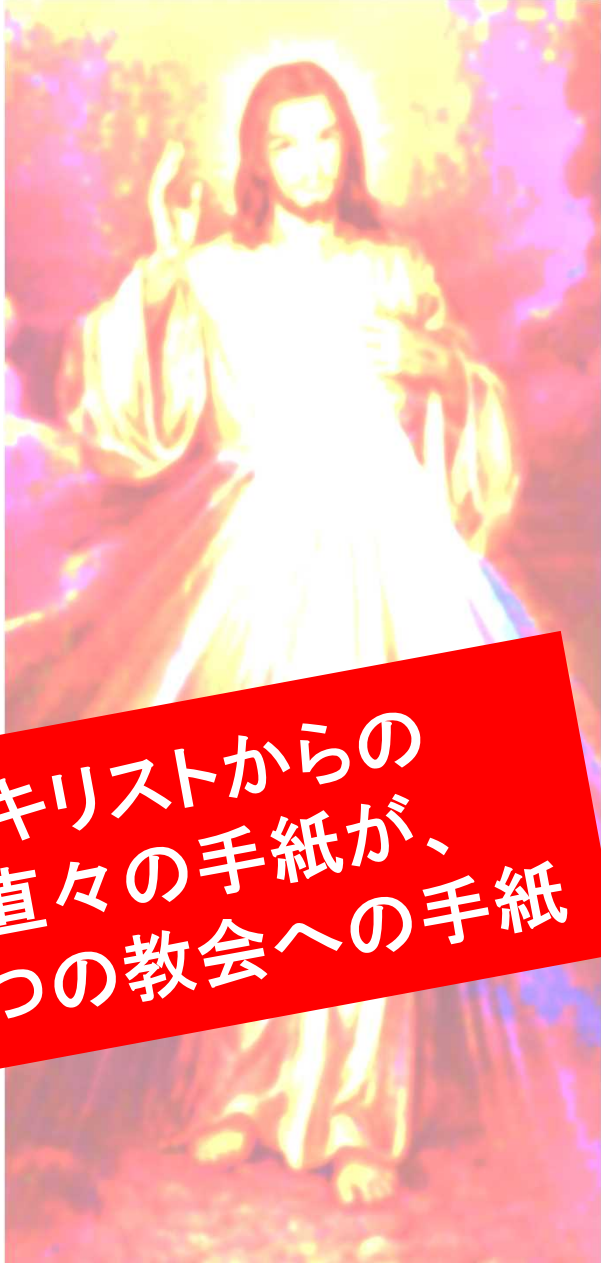
■ 教会時代のすべての教会に宛てたもの。

■ 七つの教会は、

① 時代ごとの教会の特徴であり

② すべての教会のタイプでもある。

全地域教会は、七教会のどれかの特徴を持つ。



キリストからの
直々の手紙が、
七つの教会への手紙

①エペソ	②スミルナ	③ペルガモン	④ティアティラ	⑤サルデイス	⑥フィラデルフィア	⑦ラオデキア
(好ましい)	(没薬)	(結婚した)	(継続した犠牲)	(逃れる者)	(兄弟愛)	(人々が支配する)
使徒時代	迫害時代	国家教会時代	暗黒時代	宗教改革時代	大宣教時代	背教時代
~1C	1~4C	4~5C	6~15C	16~17C	18~19C	19C~現代
正しい教理	忍耐	護教	行い	残された者	忠実	賞賛なし!
冷めた愛	叱責なし!	妥協 過寛容	誤教理の 許容	死にかけ	叱責なし! 奨励なし!	生ぬるい 役立たず
良	優	良	良	可	優	不可
過去						現在

【個々の教会へのキリストの手紙のスタイル】

① **キリストの顕現** ... 栄光のキリストの様々な側面から、その教会の課題と関連した一面が現れる。

② **賞賛** ... その教会の良いところが賞賛される。

③ **叱責** ... その教会の悪いところが叱責される。

④ **奨励** ... その教会へのすすめと励ましの言葉。

⑤ **約束** ... 永遠の神の国で信者に実現する様々な約束の内から、特に、その教会と関連したものが告げられる。

※教会の名自体が、その教会の特徴を示している。



【①エペソの教会への手紙】 黙2:1

2:1 エペソにある教会の御使いに書き送れ。『右手に七つの星*を握る方、七つの金の燭台*の間を歩く方が、こう言われる。

* 七つの星 ...教会の守護天使。

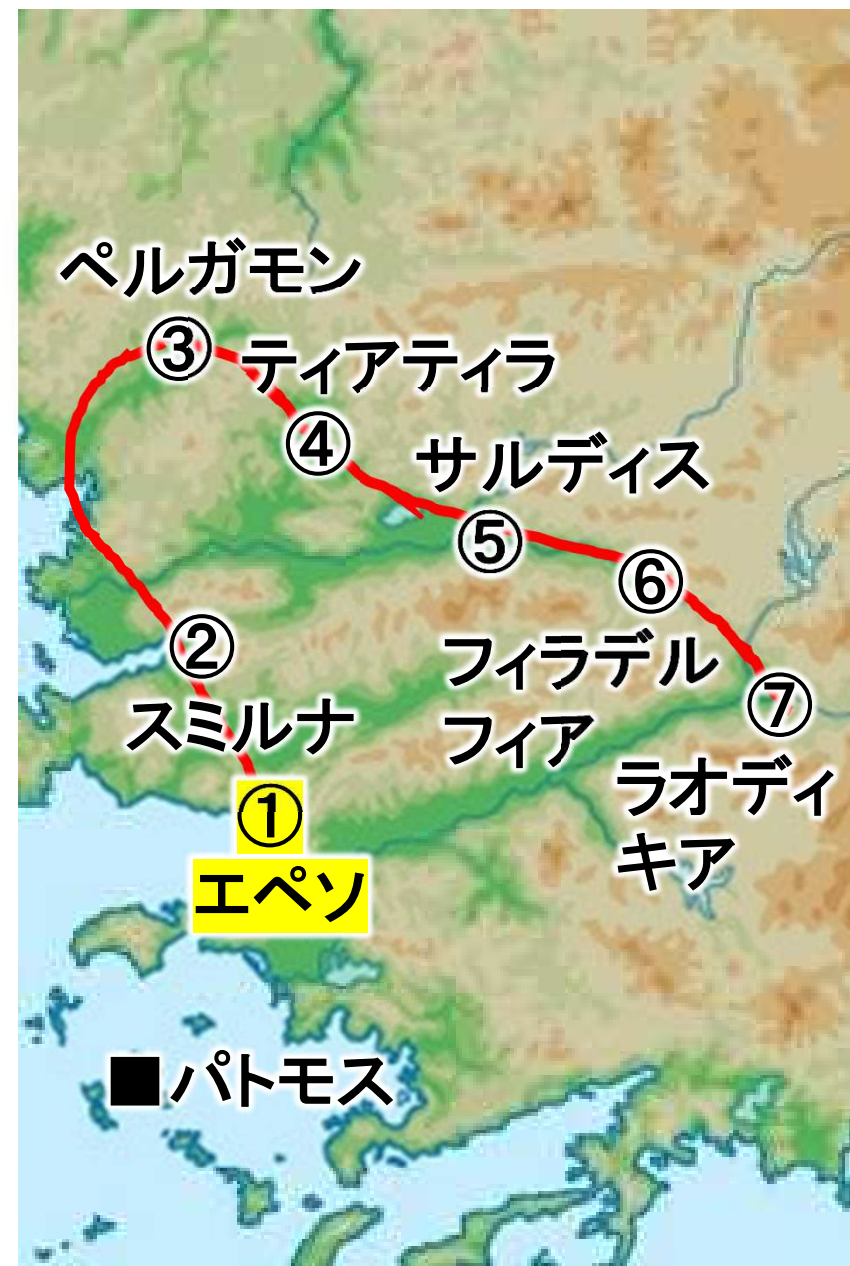
* 七つの教会 ...すべての普遍的教会

■ エペソ ...小アジア有数の都市

アルテミス神殿が有名

■ パウロが3年間奉仕(第3回伝道旅行)

➡最大の成果を収めた、その40年後。

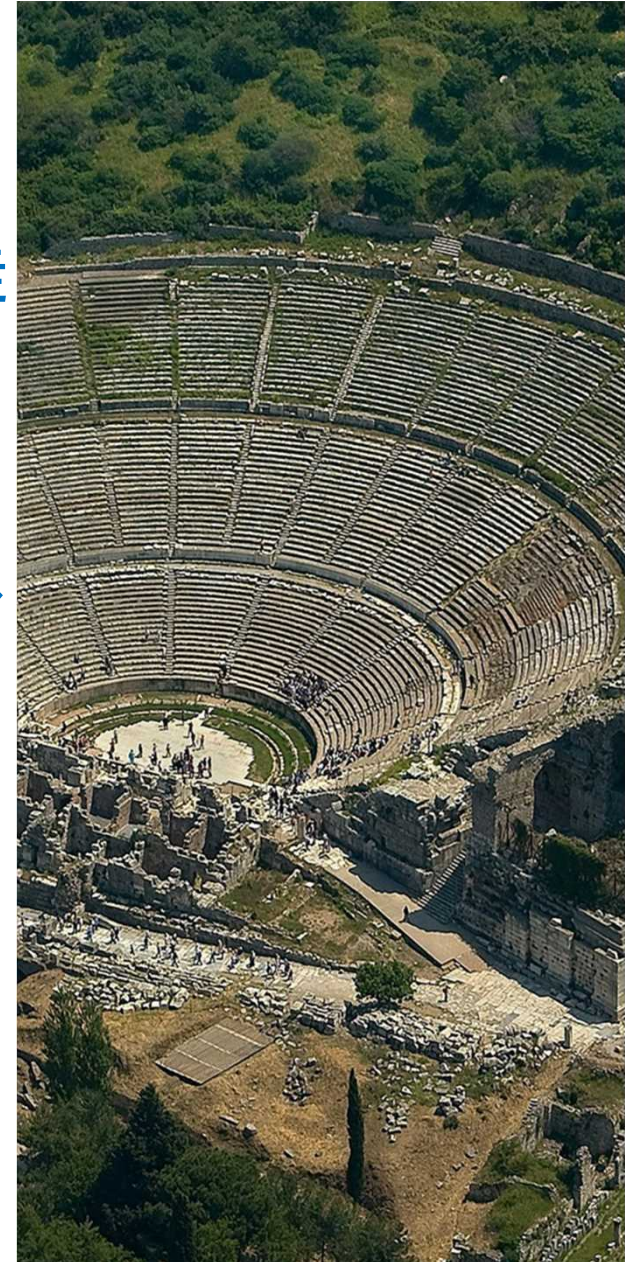


【使徒時代の教会の姿】 黙2:2～3

わたしは、あなたの行い、あなたの労苦と忍耐を知っている。また、あなたが悪者たちに我慢がならず、使徒と自称しているが実はそうでない者たちを試して、彼らを偽り者だと見抜いたことも知っている。

あなたはよく忍耐して、わたしの名のために耐え忍び、疲れ果てなかった。

- エペソの信者は、偶像礼拝者を追いだし、偽教師を見抜き、使徒たちの教えに従い通した。
- 使徒時代において、律法主義者や偽教師との対決の中、使徒たちによって教理が確立された。



【①エペソの教会への手紙】 黙2:4～5

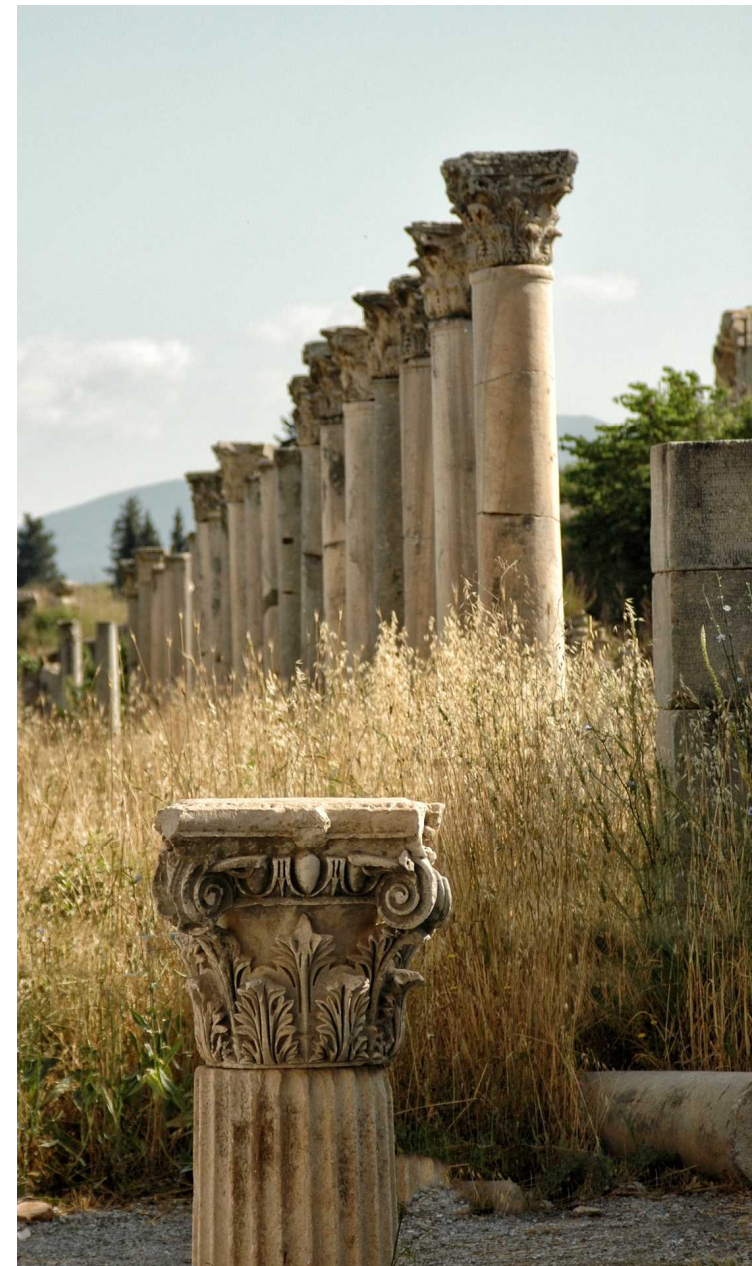
けれども、あなたには責めるべきことがある。

あなたは初めの愛から離れてしまった。

だから、どこから落ちたのか思い起こし、悔い改めて初めの行いをなささい。そうせず、悔い改めないなら、わたしはあなたのところに行って、あなたの燭台をその場所から取り除く。

■ 愛にあふれていたエペソ(エペソ1:15～16)

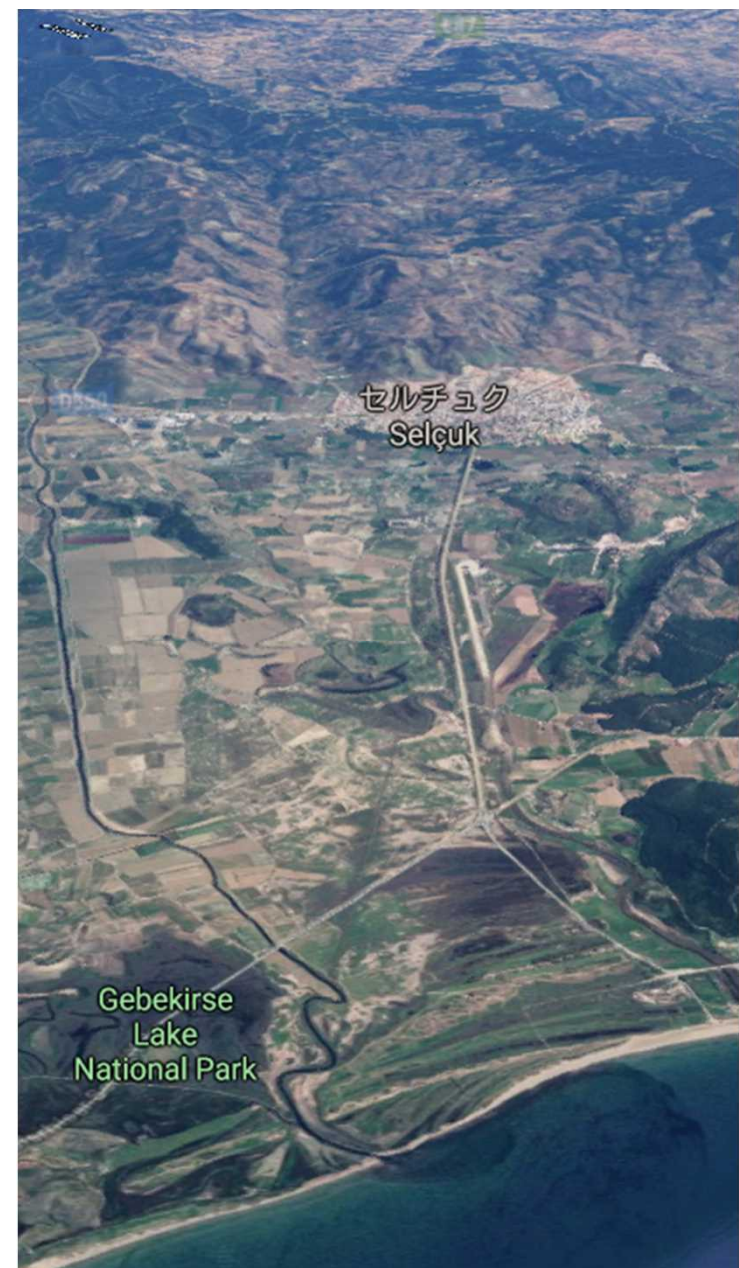
こういうわけで私も、主イエスに対するあなたがたの信仰と、すべての聖徒に対する愛を聞いているので、祈るときには、あなたがたのことを思い、絶えず感謝しています。



【誕生間もない教会の初めの愛】 使2:42～46

「彼らはいいつも、使徒たちの教えを守り、交わりを持ち、パンを裂き、祈りをしていた。

すべての人に恐れが生じ、使徒たちによって多くの不思議としるしが行われていた。信者となった人々はみな一つになって、一切の物を共有し、財産や所有物を売っては、それぞれの必要に応じて、皆に分配していた。そして、毎日心を一つにして宮に集まり、家々でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、神を賛美し、民全体から好意を持たれていた。主は毎日、救われる人々を加えて一つにしてくださった。」



【①エペソの教会への手紙】 黙2:6～7

2:6 しかし、あなたにはこのことがある。あなたはニコライ派*の人々の行いを憎んでいる。わたしもそれを憎んでいる。

* “グノーシス系”の異端?!

...ギリシャ思想の影響を強く受けた異端。
心(魂)と体、教えと実践を、分離して考え、
教会に、霊的、倫理的墮落をもたらした。

“信じていれば、行いは問題じゃない”

“愛さえあれば、教理はどうでもいい”

➡ どちらもグノーシス的。



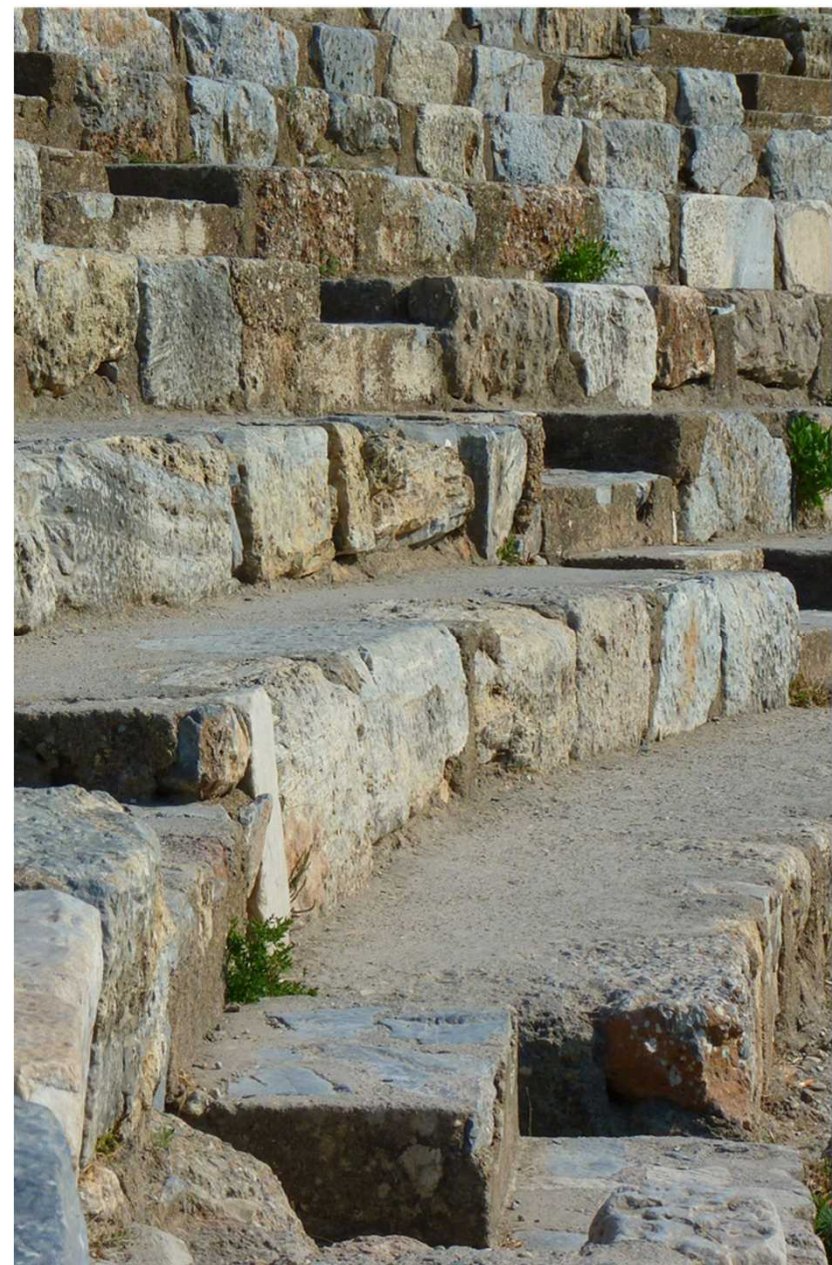
聖書的には、
愛と行い、
信仰と行いは、
一体のもの!!

【①エペソの教会への手紙】 黙2:7

耳のある者は、御霊が諸教会に告げることを聞きなさい。勝利を得る者には、わたしはいのちの木*から食べることを許す。それは神のパラダイスにある。』

***いのちの木** ...アダムとエバが、“善悪の知識の木”を食べた墮落の後、禁じられた。永遠の命をもたらすもの。

■ 新天新地において、天のエルサレムに生い茂り、すべての信者が口にすることになる。



【①エペソの教会】「好ましい」・最初の教会

①キリスト...右手に七つの星を持ち、
七つの金の燭台の間を歩く。

➡教会の主であるキリスト

②賞賛...行いと労苦と忍耐。

悪い者を追放。偽教師を拒否。

ニコライ派(グノーシス系異端?)の行いを
憎んでいる。

③叱責...初めの愛から離れてしまった。

④奨励...どこから落ちたか思い出せ。

悔い改めよ。初めの行いをせよ。

⑤約束...いのちの木の實を食べる

➡永遠の命を得る。



①エペソ

(好ましい)

使徒時代

~1C

正しい教理

冷めた愛

良

過去



【②スミルナの教会への手紙】 黙2:8～11
また、スミルナ*にある教会の御使いに書き
送れ。『初めであり終わりである方*、死んで
よみがえられた方*が、こう言われる。』

* エペソの北約55kmにある港町。

■ “没薬(もつやく)”を意味する。

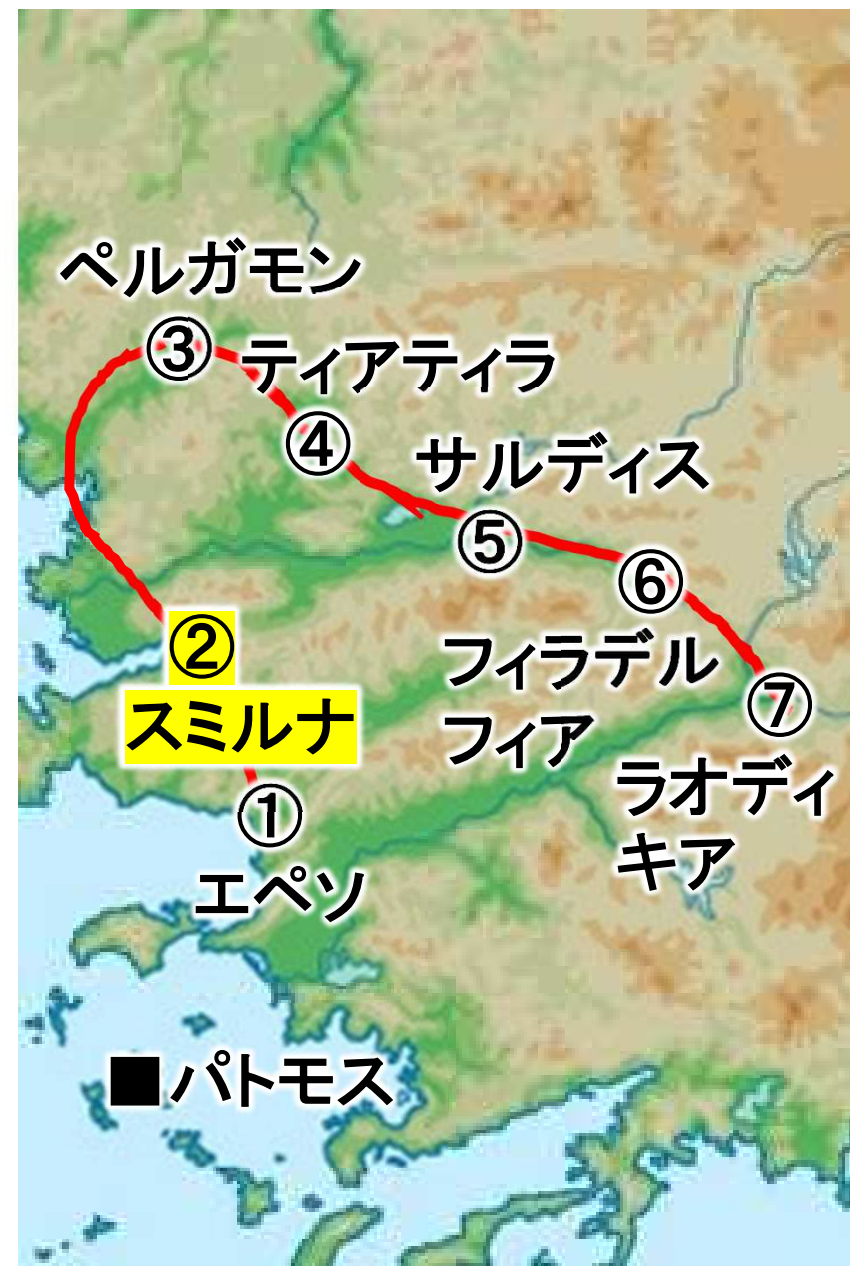
➡ 死者の埋葬の時に塗る香料。

➡ 東方の博士の幼子イエスへの贈り物。
イエスを葬るときにも塗られた。

* キリストは、永遠の神である。

* キリストは、死を打ち破って復活された。

■ スミルナは、“迫害時代”を示す。



【②スミルナの教会への賞賛】 黙2:9～11

わたしは、あなたの苦難と貧しさを知っている。
だが、あなたは富んでいるのだ。ユダヤ人だと
自称しているが実はそうでない者たち、サタン
の会衆(シナゴグ・会堂)である者たちから、
ののしられていることも、わたしは知っている

* ユダ ➡ 本来の意味は、“神を讃える”

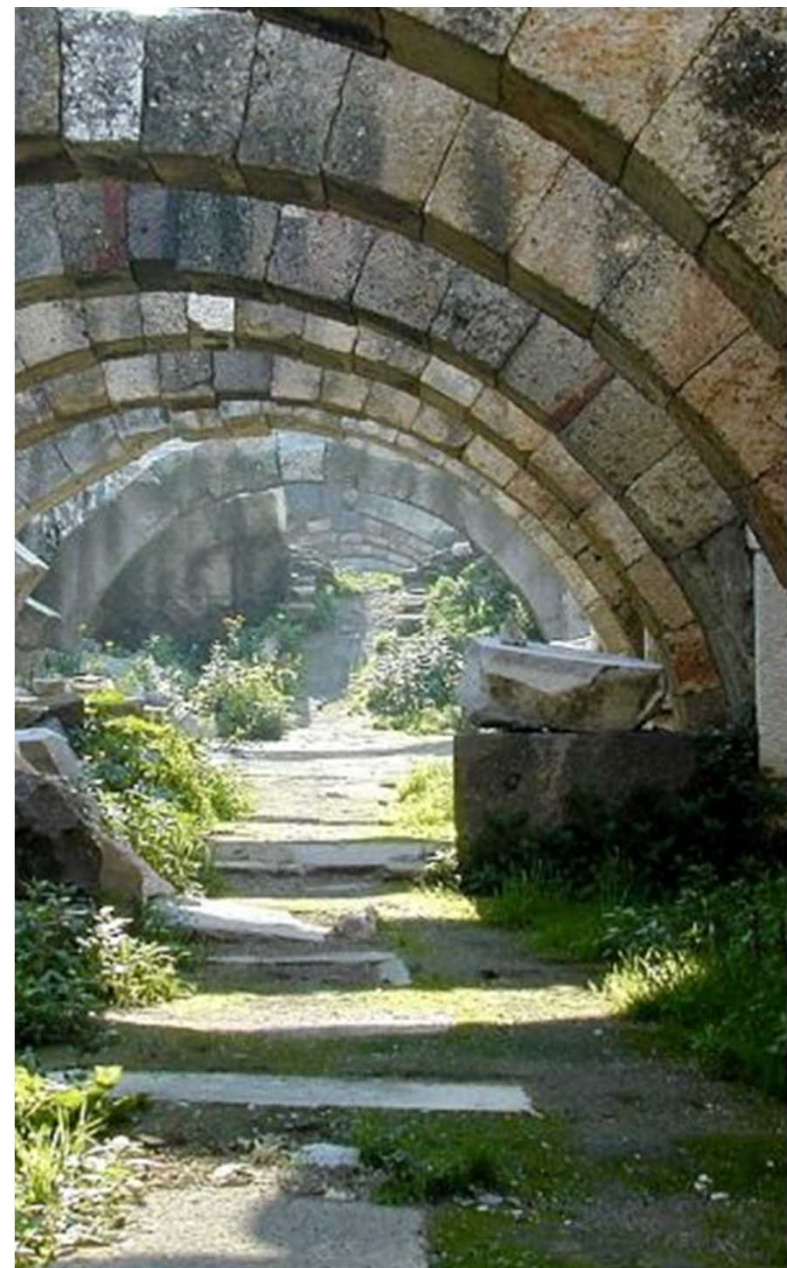
■ ユダヤ人には二種類ある

➡ 神を信じるユダヤ人(霊的ユダヤ人)と、

➡ 神を信じないユダヤ人。

■ 異邦人も同様 ➡ 神を信じる霊的異邦人と、

➡ 神を信じない異邦人。



【②スミルナの教会への奨励】 黙2:10

あなたが受けようとしている苦しみを、何も恐れることはない。見よ。悪魔は試すために、あなたがたのうちのだれかを牢に投げ込もうとしている。あなたがたは十日の間、苦難にあう。死に至るまで忠実でありなさい。そうすれば、わたしはあなたにいのちの冠*を与える。

* **永遠の命の冠** ...来るべき神の国において、すべての信者に与えられるもの。

■ 155年、スミルナ教会の指導者、ヨハネの弟子、ポリュカルポスが火刑に処せられた。



【②スミルナの教会への約束】 黙2:11

耳のある者は、御霊が諸教会に告げることを聞きなさい。勝利を得る者は、決して第二の死*によって害を受けることはない。』

* 第二の死 ... 聖書の“死”は、“神との断絶”。

■ 第二の死は、“神との永遠の断絶。霊的な死。”

➡ 白い御座の裁きの後の永遠の滅び(ゲヘナ)

■ 第一の死 ... “肉体の死”



【②スミルナの教会】「没薬」・迫害時代の教会

- ①キリスト...初めであり、終わりである方。
死んで、また生きた方。
→永遠の主、死に勝利したキリスト
- ②賞賛...貧しさと迫害に耐えている。
- ③叱責...なし
- ④奨励...苦しみを恐れるな。
死にいたるまで忠実であれ。
- ④約束...いのちの冠が与えられる。
第2の死(永遠の滅び)によって、
永遠の命が、損なわれることはない。



①エペソ

②スミルナ

(好ましい)

(没薬)

使徒時代

迫害時代

~1C

1~4C

正しい教理

忍耐

冷めた愛

叱責なし!

良

優

過去



【③ペルガモンの教会への手紙】 黙2:12

また、ペルガモン*にある教会の御使いに書き送れ。『鋭い両刃の剣を持つ方が、こう言われる。』



* ペルガモン ...“結婚した”。

■ エスクラピウス神殿(医者の神)があり、大規模な図書館のあるインテリの町。

■ ペルガモンは、教会が国家権力と一体化した国家教会時代を示す。

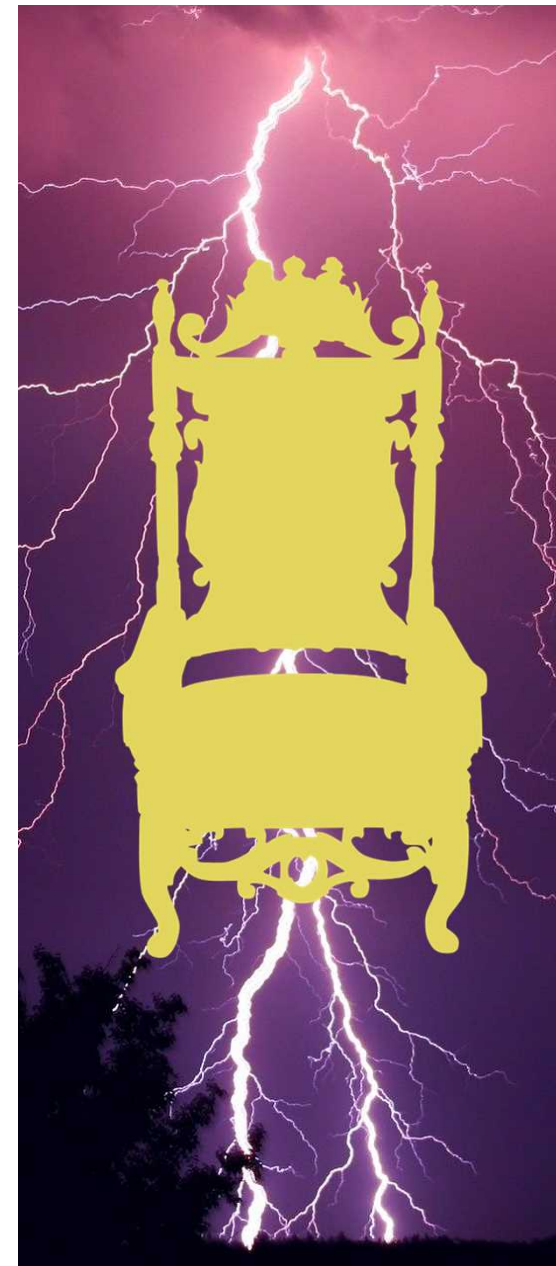


【③ペルガモンの教会への賞賛】 黙2:13

わたしは、あなたが住んでいるところを知っている。
そこにはサタンの王座*がある。しかしあなたは、わたしの名を堅く保って、わたしの確かな証人アンティパスが、サタンが住むあなたがたのところで殺されたときでさえ、わたしに対する信仰を捨てなかった。

* サタンの王座 ...サタンの別名は、“この世の君”
“空中の支配者”

- 宗教的権威と政治的権威を併せ持つのが、
 ➡大患難時代に現れる、**反キリスト**。
- ペルガモンには、大神殿と大図書館があり、
 宗教的権威と政治的権威が堅く結びついていた。



【③ペルガモンの教会への叱責】 黙2:14

けれども、あなたには少しばかり責めるべきことがある。
あなたのところに、バラムの教え*を頑なに守る者たちがいる。バラムはバラクに教えて、偶像に献げたいけにえをイスラエルの子らが食べ、淫らなことを行うように、彼らの前につまずきを置かせた。

* **バラム** ...荒野でイスラエルを呪った呪術師。神の霊に満たされ、イスラエルの祝福を告げさせられた。モアブの女たちに誘惑させ、民を霊的姦淫に陥らせた。

■ バラムは、神に敵対する不信仰者の象徴。

■ 呪術とは、自らの欲望を果たすためのサタンとの取引。



【③ペルガモンの教会への奨励】 黙2:15

同じように、あなたのところにもニコライ派の教え*を頑なに守っている者たちがいる。だから、悔い改めなさい。そうしないなら、わたしはすぐにあなたのところに行き、わたしの口の剣をもって彼らと戦う。

*ニコライ派の教えがもたらしていたもの

➡バラムのように、性的、倫理的墮落から、
偶像礼拝へ。



【③ペルガモンの教会への手紙】 黙2:17

耳のある者は、御霊が諸教会に告げることを聞きなさい。勝利を得る者には、わたしは隠されているマナ*を与える。また、白い石*を与える。その石には、それを受ける者のほかはだれも知らない、新しい名が記されている。』

* **マナ** ...天のパン。

神の国でのキリストとの交わりを示す。

* **白い石** ...競技会における勝利のしるし。

渡された者は、勝者の宴会への出席が認められた。



【③ペルガモンの教会】「結婚した」・国家教会時代

①キリスト...鋭い両刃の剣を持つ方

→み言葉の権威の源であるキリスト

②賞賛...キリストの名を堅く保っている。

キリストに対する信仰を捨てない。

③叱責...バラム(異教)の教えを報じる者がいる。

ニコライ派の教えを報じる者も。

④奨励...悔い改めよ。

⑤約束...隠れたマナ(天の栄光のキリストの体)が、

与えられる。

新しい名が記された白い石が与えられる。

→神の国の民の確かなしるし



①エペソ

②スミルナ

③ペルガモン

(好ましい)

(没薬)

(結婚した)

使徒時代

迫害時代

国家教会
時代

~1C

1~4C

4~5C

正しい教理

忍耐

護教

冷めた愛

叱責なし!

妥協
過寛容

良

優

良

過去



【④ティアティラの教会への賞賛】 黙2:18～19

また、ティアティラ*にある教会の御使いに書き送れ。『燃える炎のような目を持ち、その足は光り輝く真鍮のような神の子が、こう言われる。わたしは、あなたの行い、あなたの愛と信仰と奉仕と忍耐を知っている。また、初めの行いにまさる、近ごろの行い*も知っている。

* ティアティラ ... “継続した犠牲”

➡ “十字架につけられ続けているキリスト”

* すべてを見透かす、裁き主なるキリスト。

■ ティアティラは、暗黒時代の教会を示す。

➡ 修道院における * 清貧の行い。信仰生活



【④ティアティラの教会への叱責】 黙2:20

けれども、あなたには責めるべきことがある。あなたは、あの女、イゼベル*をなすがままにさせている。この女は、預言者だと自称しているが、わたしのしもべたちを教えて惑わし、淫らなことを行わせ、偶像に献げた物を食べさせている。

* イゼベル ...イスラエル・北王国の女王。悪女。
偶像礼拝を蔓延させ、君臨し、
預言者エリヤと対決した。

■ 土着の女神信仰が、マリア信仰として教会に定着。
➡ 人間に過ぎないマリアの神格化。偶像化。

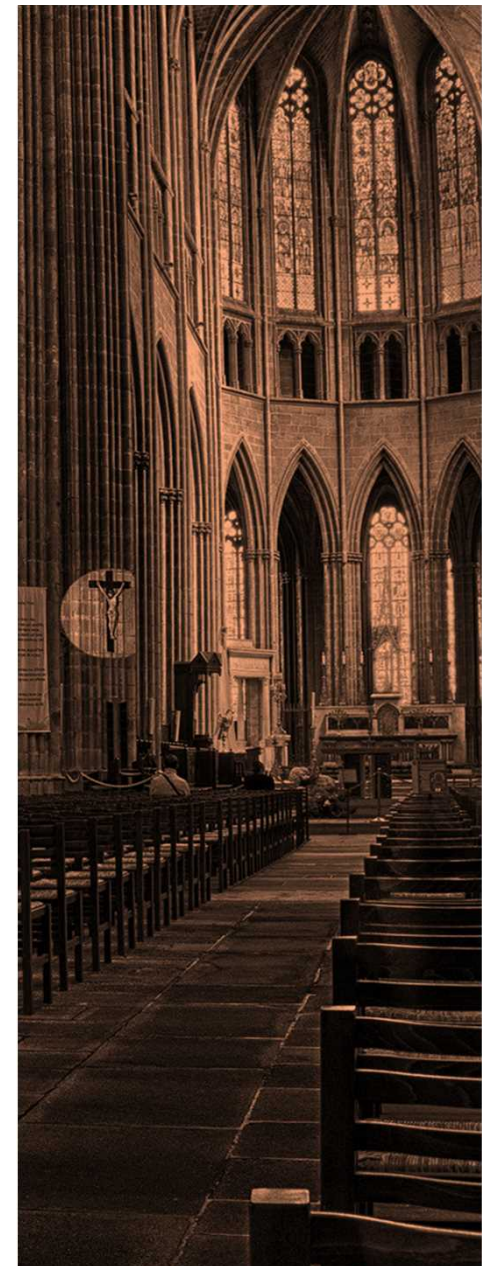


【④ティアティラの教会への手紙】 黙2:21～23

わたしは悔い改める機会を与えたが、この女は淫らな行いを悔い改めようとしな。見よ、わたしはこの女を病の床に投げ込む。また、この女と姦淫を行う者たちも、この女の行いを離れて悔い改めないなら、**大きな患難の中に投げ込む**。また、この女の子どもたちを死病で殺す。

こうしてすべての教会は、わたしが人の思いと心を探る者であることを知る。わたしは、あなたがたの行いに応じて一人ひとりに報いる。

*** 大患難時代 ... 偽りの宗教は、すべて滅ぼされる。**



【④ティアティアラの教会への奨励】 黙2:24～26

しかし、ティアティアラにいる残りの者たち、この教えを受け入れず、いわゆる「サタンの深み」を知らないあなたがたに言う。わたしはあなたがたに、ほかの重荷を負わせない。ただ、あなたがたが持っているものを、わたしが行くまで、しっかり保ちなさい。勝利を得る者、最後までわたしのわざを守る者には、諸国の民を支配する権威*を与える。

* 残れる者(レムナント)

...少数を除き、教会全体が墮落していた。

イスラエルの歴史でも真の信仰者は常に少数。

北王国のエリヤに残されていた7千人(I 王 19:18)。

* 神の国(千年王国)における統治権。



【④ティアティラの教会への約束】 黙2:27～29
彼は鉄の杖で彼らを牧する。土の器を砕くように。
わたしも父から支配する権威を受けたが、それと
同じである。また、勝利を得る者には、わたしは
明けの明星*を与える。耳のある者は、御霊が諸
教会に告げることを聞きなさい。』

* **明けの明星** ...神の時を告げるしるし。
神の栄光。



【④ティアティラの教会】「継続した犠牲」・暗黒時代

①キリスト...燃える炎のような目。

光り輝く真鍮のような足。神の子。

→真実を見抜き、悪を裁く、神の子キリスト

②賞賛...行い、愛、信仰、奉仕、忍耐

初めの行いにまさる行い

③叱責...不品行と偶像礼拝を教える女イゼベルを容認。(マリア崇拝に変形した女神信仰)

④奨励...悔い改め、正しい行いと教理を維持せよ。

⑤約束...諸国民を支配する権威の授与。

明けの明星(キリスト)が、与えられる。

→神の国でキリストの共同統治者とされる





福音から知るキリスト
栄光の主を讃えよう



【私たちに与えられた恵みを確認しよう】 黙2:24

「わたしはあなたがたに、ほかの重荷を負わせない。ただ、あなたがたが持っているものを、わたしが行くまで、しっかり保ちなさい。」

■ 私たちに与えられている重荷は、キリストの軛だけ。

「わたしは心が柔和でへりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすれば、たましいに安らぎを得ます。マタイ 11:29」

■ キリストの軛とは、キリストの福音を信じ、告げ知らせること

“主イエス・キリストは、私の罪のために十字架にかけられ、死んで葬られ、復活された”

■ キリストは、栄光の姿で天におられ、来たるべき時に、再び戻って来られる。

【信仰の土台を確認しよう】

- 主イエスの福音を信じる信仰を礎石とし、使徒たちの教えを土台として、私たちは、今を支えられている。
- 救いは、ただ、福音を信じた、信仰により恵みによる。
神の約束は変わらない。一度与えられた救いは失われない。
- 教会は、異邦人の救いの完成の時まで、福音を述べ伝えていく。
- 使徒たちの活動の中心は、常に福音の宣言と御言葉の解き明かし。
- 変わらない福音に、堅く立って遣わされて行こう。
そのただ中に、主が共におられ、恵みと平安が限りなく注がれる。

「天のお父さま。

わたしは、御子(みこ)イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがな)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信(しん)じます。

主の福音(ふくいん)と使徒(しと)たちの教えの上に、堅(かた)く立ち続ける者としてください。福音(ふくいん)を告(つ)げ、御言葉(みことば)を解(と)き明(あ)かすために、よろこびもって、ここから遣(つか)わしてください。

感謝(かんしゃ)して、主(しゅ)イエス・キリストの御名(みな)によって祈ります。 アーメン」